

第35期 (2015年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2015年 5月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : ir@donki.co.jp

ドンキホーテHD、業績は絶好調！！

14年7月～15年3月期

ドンキホーテHDは2014年7月～15年3月期の連結決算を7日に発表した。売上高は前期比10%増の5,099億円、営業利益は16%増の337億円、経常利益は16%増の348億円、純利益は7%増の201億円と、引き続き大幅な増収増益を達成した。

消費税増税以降に価格感応度が高まり消費者心理が悪化していた中で、同社は顧客に向き合い、スピード感を持った販売施策を真っ正直に展開した。その成果は生活必需品を中心に他社からシェアを獲得するなど、同社のファンダメンタルズは着実に上昇していった。

インバウンド消費を着実に取り込んだ営業力にも目を見張るものがある。同店が立地する店舗ロケーション、バラエティな商品構成、ディスカウント価格、手頃なワンストップショッピング空間、ストレスフリーの買い物時間の提供などが、訪日客の人気を高めている。

15年6月期における通期の業績予想は好調な進捗状況を背景に、2月に続く再度の上方修正で市場の期待に応えた。1号店をスタートした1989年以来、26期連続増収増益の達成を引き寄せると同時に過去最高実績を更新する見込みだ。



2015年6月期 3Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 月次販売高の状況
- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ 消費税増税商戦中間報告
- ✓ ようこそドン・キホーテへ
- ✓ 上場子会社の状況

2015年6月期 通期業績予想

- ・本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- ・本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、アクリーティブ(8423)は「ACR」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」と表示している箇所があります。

1. 3Q累計連結業績概況

生活必需品需要を獲得して顧客支持基盤を底上げ、インバウンド消費拡大で一層の押し上げ効果を楽しもう！！

- ▶ 節約志向の消費行動が継続した消費税増税商戦は、お客さま志向を徹底した営業施策が奏功。第1フェーズは価格感応度の高い商品の提案と価格訴求で「客数増」を実現。第2フェーズは松竹梅作戦で「客単価向上」策を推進。第3フェーズはMD施策を再度見直し、非食品を中心とした付加価値型商品の強化などで「粗利益改善」策につなげる。
- ▶ 訪日外国人に向けた新免税制度導入に際しては、2008年から取り組んできた先行施策と併せて、来店動機を促進する様々なサービス施策を追加展開。インバウンド消費市場におけるフロントランナーとして、「ドン・キホーテ」の存在感はますます向上したものと確信。
- ▶ 「果敢な挑戦の手を緩めず、かつ現実を直視した撤退を恐れない」施策により、店舗展開は順調に推移。大都市圏、地方都市圏ともに営業効率はますます改善し、収益力を伴う成長を実現。これらが寄与して営業利益は3四半期連続で100億円突破。
- ▶ 当3Q（15年1月～3月）は、前年同期間における高いハードル（消費税増税前のまとめ買い特需）を意識して、前半から貯金を積み上げる営業施策を講じた結果、DQ既存店は0.6%増（前3Q = 4.9%増）と前年を上回って着地！
- ▶ これらのことから、3Q累計連結業績は通期業績予想に対する進捗率も順調に推移し、売上高5,099億円（前期比10.4%増：進捗率77.5%）、営業利益337億円（同16.4%増：92.3%）、経常利益348億円（同16.7%増：92.8%）及び当期純利益201億円（同7.0%増：92.1%）と増収増益を達成し、3Q累計期間最高益も更新！！

2. 通期業績見通し

前回予想を上方修正し、「26期連続増収増益」に大手をかける！

- ▶ 連結業績の進捗状況を踏まえた通期業績の見通しは、期初予想を2015年2月5日に上方修正した前回予想を再度上方修正。売上高6,680億円（前回予想は6,580億円）、営業利益380億円（同365億円）、経常利益390億円（同375億円）及び当期純利益223億円（同218億円）を予想し、26期連続増収増益達成を見込む。

3Q累計業績サマリー

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2014年7月1日～2015年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q累計実績				前3Q実績		通期公表予想 ^{※1}	
	金額	百分比	前期比	進捗率 ^{※2}	金額	百分比	金額	百分比
売上高	509,920	100.0%	110.4%	77.5%	461,776	100.0%	658,000	100.0%
売上総利益	137,531	27.0%	113.0%	78.4%	121,702	26.4%	175,500	26.7%
販管費	103,844	20.4%	111.9%	74.7%	92,764	20.1%	139,000	21.2%
営業利益	33,687	6.6%	116.4%	92.3%	28,938	6.3%	36,500	5.5%
経常利益	34,802	6.8%	116.7%	92.8%	29,816	6.5%	37,500	5.7%
当期純利益	20,083	3.9%	107.0%	92.1%	18,764	4.1%	21,800	3.3%
1株利益	255.47円		106.3%	91.9%	240.25円		278.09円	

※1. 連結業績予想は、2015年2月5日に、2014年8月18日に公表した当初予想（売上高6,340億円、営業利益348億円、経常利益356億円、純利益215億円）を上方修正したものであります。

※2. 進捗率は通期業績予想に対する進行割合を表しております。



3Q累計連結業績概況コメント

ドンキホーテ HLDGS

▶ 連結売上高：5,099億円（前期比10.4%増）

消費税増税から1年経過。食品・日用消耗品などのコモディティ系商品の提案と価格訴求力でファミリー層を獲得してファンダメンタルズを底上げ。訪日外国人に向けた新免税制度導入以降は、インバウンド市場を先駆的に開拓してきた先行者メリットを享受。3Q累計期間における主力のDQ既存店は3.3%増。MEGA中心の長崎屋は3.0%増。

▶ 当3Q末店舗数：295店（前期末283店）

積極的なスクラップ&ビルドを推進し、新規出店22店（DQ9店、New MEGA10店、驚安堂2店、ドイト1店）の一方で、休業または閉鎖10店（改築1店、移転2店、業態転換1店、完全閉鎖6店）

▶ 連結売上総利益：1,375億円（前期比13.0%増）同率：27.0%（同0.6pt改善）

消費税増税商戦を三段階作戦で臨んだ成果により、粗利益率水準も底打ち。加えてインバウンド消費を存分に取り込んでいることから、高回転の一方で、低粗利益率のコモディティ系商品が増加しているにも関わらず、総利益率は改善というドンキマジック発揮。なお、当3Qの連結総利益率は27.37%と四半期最高実績を更新。

▶ 連結販管費：1,038億円（同11.9%増）、同率：20.4%（同0.3pt低下）

当初予定を上回る新規出店22店の初期費用を含めた諸費用が増加。さらに生活必需品やインバウンド消費のシェア上昇に伴う作業工数増を主要因とする人件費増なども増収効果で吸収。なお、当3Qの販管費率21.2%は13年と同水準。

▶ 営業外収支戻：11.2億円のプラス

受取利息・配当金4.5億円、違約金収入5.6億円/支払利息6.7億円、債権流動化費用5.1億円など。

▶ 特別損益戻：7.6億円のマイナス

負ののれん発生益1.7億円/固定資産売却損3.7億円、店舗閉鎖損失4.8億円など。

▶ これらのことから、営業利益337億円（同16.4%増）、経常利益348億円（同16.7%増）、当期純利益201億円（同7.0%増）と前通期実績に迫る大幅増益を達成し、3Q累計期間最高益を更新。

3Q累計連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2014年7月1日～2015年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	509,920	100.0%	461,776	100.0%	110.4%
売上総利益	137,531	27.0%	121,702	26.4%	113.0%
販管費	103,844	20.4%	92,764	20.1%	111.9%
給与手当	37,170	7.3%	32,105	7.0%	115.8%
地代家賃	14,044	2.8%	13,213	2.9%	106.3%
支払手数料	11,722	2.3%	11,157	2.4%	105.1%
減価償却費	8,415	1.6%	7,453	1.6%	112.9%
その他	32,493	6.4%	28,836	6.2%	112.7%
営業利益	33,687	6.6%	28,938	6.3%	116.4%
経常利益	34,802	6.8%	29,816	6.5%	116.7%
当期純利益	20,083	3.9%	18,764	4.1%	107.0%
1株当たり純利益	255.47円		240.25円		106.3%

3Q累計事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶リテール事業4,919億円（前期比10.5%増）

降雨や台風などの天候不順や、前年における特殊要因の反動によるマイナス影響を受けたものの、「ファミリー層を中心とした生活必需品需要」がファンダメンタルズをより強固にし、「毎月増加するインバウンド需要」が収益拡大に寄与！消費税増税前後から種まきをしてきた各種施策がいよいよ発芽！！

*「家電製品」438億円（同2.1%増）

スマートフォンアクセサリーとPOSAカードが2大牽引役となり盤石な基盤を形成。季節家電は低調となったものの、コーヒーメーカーなどの「調理家電」、ヘアドライヤーなどの「理美容家電」の好調な商品がカバー。

*「日用雑貨品」1,136億円（同9.5%増）

日々の生活で必要不可欠な洗剤やヘアケア用品、紙製品などの「日用消耗品」の支持率が高まる。化粧品や医薬品、ベビー用品は訪日外国人からの人気拡大。ステンレスボトルやお弁当箱などの台所用品が伸長。

*「食品」1,537億円（同14.9%増）

菓子類、酒類、日配品、加工食品、冷凍食品など多くの商品群が軒並み好調に推移。ブームに下支えされてウイスキー、報道を受けてカップ麺の需要が拡大。MEGA店の生鮮食品及び惣菜は精肉と揚物が牽引し、高い成長率を達成。

*「時計・ファッション用品」1,066億円（同4.9%増）

インバウンド需要を反映した高級ブランド腕時計が実績を積み上げる。季節衣料は苦戦した一方で、パーティーコスチューム、サングラスや手袋などの服飾小物、キャリケースなどのカバン類が堅調。

*「スポーツ・レジャー用品」274億円（同5.2%増）

アウトドア用品が伸び悩んだ反面、バランスボールやトレーニングチューブなどのエクササイズ用品が伸長。話題の人気キャラクター新商品が玩具類に貢献。

*「DIY用品」130億円（同3.9%減）

天候不順と消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響を受けて、園芸用品及び工具などのプロ向け商品が不振。低単価・小回りの利いたリフォーム提案が奏効。

*「海外」263億円（同57.3%増）

生鮮食品や日本製の加工食品などの「オリエンタルグロサリー」と焼魚パックなどの惣菜及び弁当などの「モバイルフーズ」が質・価格の両面で人気上昇。既存3店はUSDベースで4.9%増。（ご参考：当3Q 1USD=107.8円、前3Q=100.2円）

▶テナント賃貸事業 136億円（同7.7%増）

商業施設事業及びJAM事業が順調な成長に寄与。

3Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2014年7月1日～2015年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	491,943	96.5%	445,154	96.4%	110.5%
家電製品	43,751	8.6%	42,832	9.3%	102.1%
日用雑貨品	113,628	22.3%	103,774	22.5%	109.5%
食品	153,660	30.1%	133,695	29.0%	114.9%
時計・ファッション用品	106,560	20.9%	101,584	22.0%	104.9%
スポーツ・レジャー用品	27,388	5.4%	26,022	5.6%	105.2%
DIY用品	13,045	2.6%	13,572	2.9%	96.1%
海外	26,329	5.1%	16,735	3.6%	157.3%
その他商品	7,582	1.5%	6,940	1.5%	109.2%
テナント賃貸事業	13,568	2.7%	12,599	2.7%	107.7%
その他事業	4,409	0.8%	4,023	0.9%	109.6%
合計	509,920	100.0%	461,776	100.0%	110.4%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	15年3月	14年6月	増減額
流動資産	178,386	158,834	19,552
現預金	49,451	42,690	6,761
商品	96,918	89,105	7,813
固定資産	321,416	273,301	48,115
建物等	93,318	77,078	16,240
土地	146,600	119,680	26,920
敷金保証金	30,439	30,963	▲524
資産合計	499,802	432,135	67,667

主な資産の状況

- ▶ **総資産：4,998億円**（前期末比677億円増）
 主な増加要因は、現預金68億円増、受取手形及び売掛金11億円増、棚卸資産78億円増及び出店に伴う有形固定資産428億円増、無形固定資産19億円増など。
- ▶ **現預金：495億円**（同68億円増）
 積極的な店舗拡大策に伴う資金需要に対して、銀行借入れに加えて、3年振りに普通社債300億円を発行するなど、デット調達を実施。
- ▶ **商品：969億円**（同78億円増）
 当初予想を上回って順調に拡大する新規出店に伴う在庫増及び好調な販売動向を続ける既存店の販売機会ロス削減に努めたため78億円増。
- ▶ **固定資産：3,214億円**（同481億円増）
 当初予想を上回る3Qまでの新規出店22店及び次期以降の出店物件の獲得により、建物・土地などの有形固定資産428億円増、無形固定資産19億円増。

主な負債・純資産の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	15年3月	14年6月	増減額
流動負債	138,841	114,444	24,397
買掛金	57,840	55,118	2,722
短期負債 ^{※1}	41,001	19,944	21,057
固定負債	143,789	124,527	19,262
社債	63,490	44,300	19,190
長期借入金	26,570	30,030	▲3,460
債権流動化に伴う 長期支払債務	35,792	34,345	1,447
負債合計	282,630	238,971	43,659
純資産合計	217,172	193,164	24,008
負債・純資産合計	499,802	432,135	67,667

主な負債・純資産の状況

- ▶ **負債合計：2,826億円** (同437億円増)
 主な増加要因は、買掛金27億円増、債権流動化に伴う支払債務25億円増、有利子負債368億円増 (短期性負債211億円増、長期性負債157億円増) など。
- ▶ **有利子負債：1,311億円**
 (同368億円増、依存率26.2%、うちACR142億円)
- ▶ **純負債：816億円** (同300億円増)
- ▶ **債権流動化に伴う支払債務：428億円は ABL (Asset backed loan) により調達。**
- ▶ **D/Eレシオ：0.60倍**
 (前3Q比横ばい、参考：Net D/Eレシオ：0.38倍)
- ▶ **純資産：2,172億円**
 (前期末比240億円増、自己資本比率41.8%)

※1. 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

3Q累計セグメント情報（事業別）

ドン・キホーテ HLDGS

セグメント利益は、「リテール事業」206億円、
「テナント賃貸事業」94億円、「その他の事業」39億円！！

当3Q累計 セグメント概要【2014年7月1日～2015年3月31日】※1

（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	491,943	13,568	4,409	509,920	—	509,920
内部取引等	—	11,573	4,567	16,140	▲16,140	—
計	491,943	25,141	8,976	526,060	▲16,140	509,920
セグメント利益	20,605	9,393	3,947	33,945	▲258	33,687

前3Q累計 セグメント概要【2013年7月1日～2014年3月31日】※1

（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	445,154	12,599	4,023	461,776	—	461,776
内部取引等	—	4,462	2,949	7,411	▲7,411	—
計	445,154	17,061	6,972	469,187	▲7,411	461,776
セグメント利益	23,094	5,173 ^{※2}	2,551 ^{※2}	30,818	▲1,880	28,938

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 前年度4Qに連結子会社の一部の事業上の位置づけを変更したことに伴い、「テナント賃貸事業」と「その他事業」に係る前3Qセグメント情報を、現行基準に変更して記載しております。

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

1. キャッシュフローの状況

	当3Q	前3Q	増減額
期首残高	44,105	36,132	7,973
営業活動CF	24,434	28,926	▲4,492
投資活動CF	▲41,317	▲26,879	▲14,438
財務活動CF	22,501	13,358	9,143
期中増減等	6,539	15,967	▲9,428
期末残高	50,644	52,099	▲1,455
営業活動CF+投資活動CF	▲16,883	2,047	▲18,930

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益340億円、減価償却費94億円及び仕入債務の増加18億円などが増加要因となる一方で、棚卸資産の増加68億円及び税金支払額149億円などが減少要因となったことから、244億円がキャッシュイン

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得369億円、敷金保証金の差入れ20億円、出店仮勘定の差入れ25億円などにより、413億円がキャッシュアウト

<財務CF>

▶社債の純増315億円、債権流動化による純増20億円などが収入となる一方で、借入金の純減91億円及び配当金支払28億円などが減少要因となったことから、225億円がキャッシュイン

2. 設備投資の状況

設備投資額	41,006	26,590	14,416
キャッシュフロー ^{※1}	26,749	24,350	2,399
差引	▲14,257	▲2,240	▲12,017

設備投資

▶当期中の新規出店に加えて、次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで、設備投資は410億円（DQHD76億円、DQ137億円、長崎屋9億円、JAM184億円など。うち連結消去57億円：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は376億円）。キャッシュフローは267億円獲得したが、積極的な投資活動によりフリーCFは▲143億円。

※1. キャッシュフロー=純利益+減価償却費+特別損失-配当金

Don Quijote Holdings Co., Ltd. 3Q results of FY2015.

3Q連結損益業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【2015年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	167,696	100.0%	158,454	100.0%	105.8%
売上総利益	45,897	27.3%	40,627	25.6%	113.0%
販管費	35,621	21.2%	32,193	20.3%	110.6%
給与手当	12,839	7.7%	11,271	7.1%	113.9%
地代家賃	4,874	2.9%	4,574	2.9%	106.6%
支払手数料	3,931	2.3%	3,612	2.3%	108.8%
減価償却費	3,045	1.8%	2,902	1.8%	104.9%
その他	10,932	6.5%	9,834	6.2%	111.2%
営業利益	10,276	6.1%	8,434	5.3%	121.8%
経常利益	10,758	6.4%	8,681	5.5%	123.9%
当期純利益	6,389	3.8%	5,740	3.6%	111.3%
1株当たり純利益	81.06円		73.31円		110.6%

3Q連結事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【2015年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	161,582	96.4%	152,831	96.4%	105.7%
家電製品	14,405	8.6%	14,737	9.3%	97.7%
日用雑貨品	37,099	22.1%	34,912	22.0%	106.3%
食品	52,045	31.1%	47,974	30.3%	108.5%
時計・ファッション用品	33,396	19.9%	32,303	20.4%	103.4%
スポーツ・レジャー用品	7,553	4.5%	7,356	4.6%	102.7%
DIY用品	4,327	2.6%	4,532	2.9%	95.5%
海外	10,216	6.1%	8,703	5.5%	117.4%
その他商品	2,541	1.5%	2,314	1.4%	109.8%
テナント賃貸事業	4,596	2.7%	4,250	2.7%	108.1%
その他事業	1,518	0.9%	1,373	0.9%	110.6%
合計	167,696	100.0%	158,454	100.0%	105.8%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

3Q決算サマリー

ファミリー層獲得を目論んだ商品・価格施策が奏効。
「生活必需品」の支持が一層高まったことで、ますます強固なファンダメンタルズを形成。
免税売上高は毎月最高記録を更新し、既存店の高成長に寄与。

<必需品消費に堅実な手応え 1月>

既存店売上高：6.7%増 客数：1.2%増 客単価：5.4%増

☹️ ● 初売り日数1日少ない営業日

😊 ● 生活必需品への支持高まる

😊 ● 初売り週に免税売上高が増加

<爆買いの下支えと貯金月間 2月>

既存店売上高：9.4%増 客数：5.6%増 客単価：3.7%増

😊 ● 既存店成長率が史上最高水準

😊 ● 春節効果でアジア客増加

😊 ● 昨年大雪による苦戦の反動増

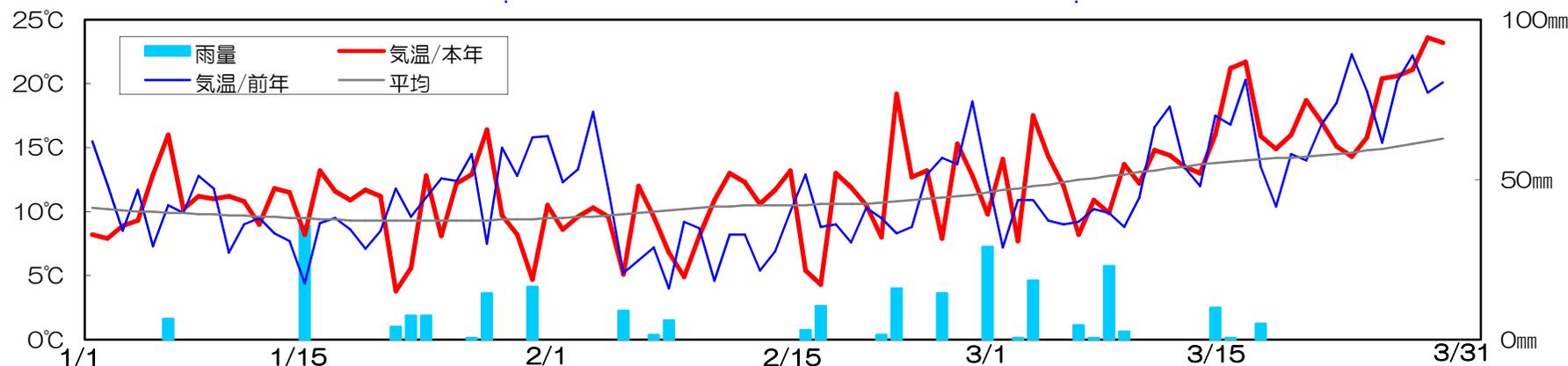
<反動減は想定内で粗利確保 3月>

既存店売上高：10.5%減 客数：5.4%減 客単価：5.4%減

☹️ ● 休日数2日少ない営業日

😊 ● 免税売上高 最高記録更新

😊 ● 2年前比ではプラスで着地



<主な出来事>

今年
昨年

✓ 台風1号発生。
観測史上最速ペースでの台風発生

✓ 春節・旧正月休暇
(中国：2月18日～24日)

✓ 桜の開花日 (3月23日)

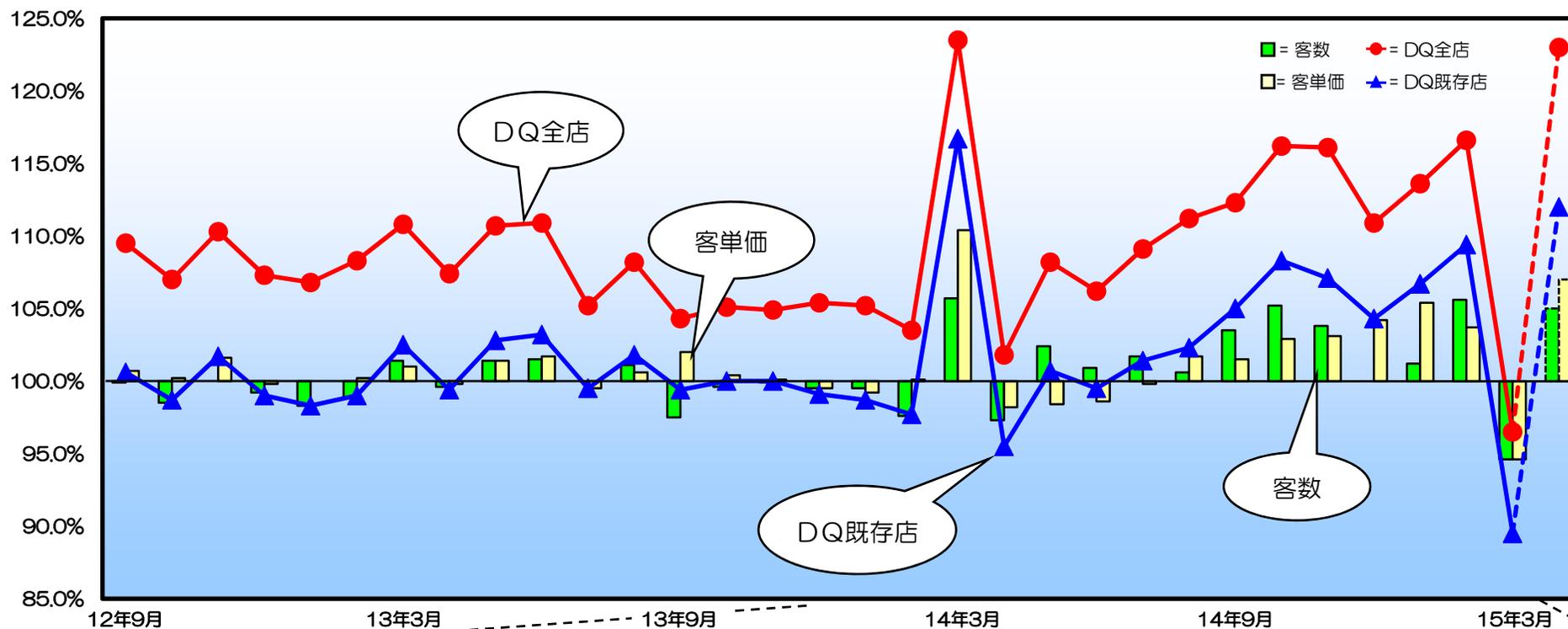
✓ 冷凍食品の安全問題が顕在化

✓ 東京都心で20年ぶりの大雪
✓ 春節・旧正月休暇
(中国：1月31日～2月6日)

✓ 消費税増税直前 駆け込み需要
✓ 桜の開花日 (3月25日)



月次販売高の状況 (DQ)



既存店	14年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	15年1月	2月	3月
売上高	98.7%	97.7%	116.7%	95.5%	100.7%	99.5%	101.4%	102.3%	105.0%	108.3%	107.1%	104.3%	106.7%	109.4%	89.5%
・客数	99.5%	97.6%	105.7%	97.3%	102.4%	100.9%	101.7%	100.6%	103.5%	105.2%	103.8%	100.0%	101.2%	105.6%	94.6%
・客単価	99.2%	100.1%	110.4%	98.2%	98.4%	98.6%	99.8%	101.7%	101.5%	102.9%	103.1%	104.2%	105.4%	103.7%	94.6%
対象店舗数	192店	191店	193店	195店	195店	194店	196店	196店	196店	195店	196店	200店	203店	204店	205店

周到的準備と緻密な戦略を駆使した消費税増税商戦と新免税制度導入期。

ファミリー需要の獲得で力強さを増し、インバウンド対応はまさにフロントランナーの真髄発揮。

3Q累計期間の既存店は3.3%増（客数1.6%増、客単価1.7%増）。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2013年 6月期	2014年 6月期	2015年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ	※1 165	174	172	173	175
ピカソ	※2 14	15	17	18	18
MEGA	※3 ※4 35	37	37	37	36
New MEGA	※4 21	28	31	34	39
海外(アメリカ)	3	14	14	14	14
ドイツ	13	12	12	12	11
長崎屋	4	3	3	3	2

法人別店舗数

ドン・キホーテ	200	217	220	225	232
長崎屋	39	40	40	40	38
ドイツ	13	12	12	12	11
国内合計	252	269	272	277	281
D Q U S A	3	3	3	3	3
M A R U K A I	-	11	11	11	11
海外合計	3	14	14	14	14
合計	255	283	286	291	295

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」及び「驚安堂」が含まれております。
- ※3. ㈱長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. 前期までMEGAに含まれていた店舗のうち、DQ法人が運営する4店(旧ドイツ)を営業実態に合わせてNew MEGAに移動し、過年度分についても遡及変更しております。
- ※5. 事業活動の見直しによりDQのうち2店を驚安堂、1店をNew MEGA及び1店をドイツに業態転換する一方で、移転・効率改善策などグループ全体で8店を閉鎖しております。
- ※6. 上記の他に、2店が改装のため休業しております。
- ※7. *は、ソリューション出店であります。



2月 MEGAドン・キホーテ
新世界店 *



2月 ドン・キホーテ
釧路店



3月 MEGAドン・キホーテ
松原店



3月 MEGAドン・キホーテ
つくば店



3月 MEGAドン・キホーテ
宮崎都城店



3月 MEGAドン・キホーテ
浜松三方原店 *



2月 ドン・キホーテ
鹿児島天文館店



当期ハイライト

消費税増税商戦において新規顧客の獲得に成功しファンダメンタルズが底上げされる。

インバウンド消費に係る先駆的ポジションを獲得。

当3Q累計期間の新規出店数はDQ9店、New MEGA10店など22店。

		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
DQ	DQ	*橋本駅前 後樂園 旭	伊勢佐木町 名古屋栄 静岡松富	多摩瑞穂 鹿児島 天文館 釧路	石巻街道 矢本 豊中 香芝 インター *法円坂 越谷
	MEGA	茨木 新横浜	深江橋 春日井 *山形三川	*新世界 *浜松三方原 都城 松原 つくば	
	ピカソ	目白	梅島駅前		
	業態転換	大宮南銀 新南城	日ノ出町		
長崎屋					
ドイト		新横浜			小金井公園
MARUKAI				Tokyo Central Costa Mesa	Tokyo Central West Covina

ライジングクルー
(60歳以上のパート)
採用開始

代表取締役への
職務委嘱の変更

majica会員
150万人突破

「YOKOSO! JAPAN PASS」
「ウェルカムデスク」運用開始

JAM発行の
転換社債型新株予約権付社債
及び新株予約権の引受

majica会員
200万人突破

JCR格付
「A+」に
格上げ

「ウェルカム予約サイト」
「空港配送サービス」開始

無担保普通
社債発行
(300億円)

グループ
300店達成

代表者の
異動

■ = DQ

■ = MEGA

■ = ドイト

■ = ピカソ
驚安堂

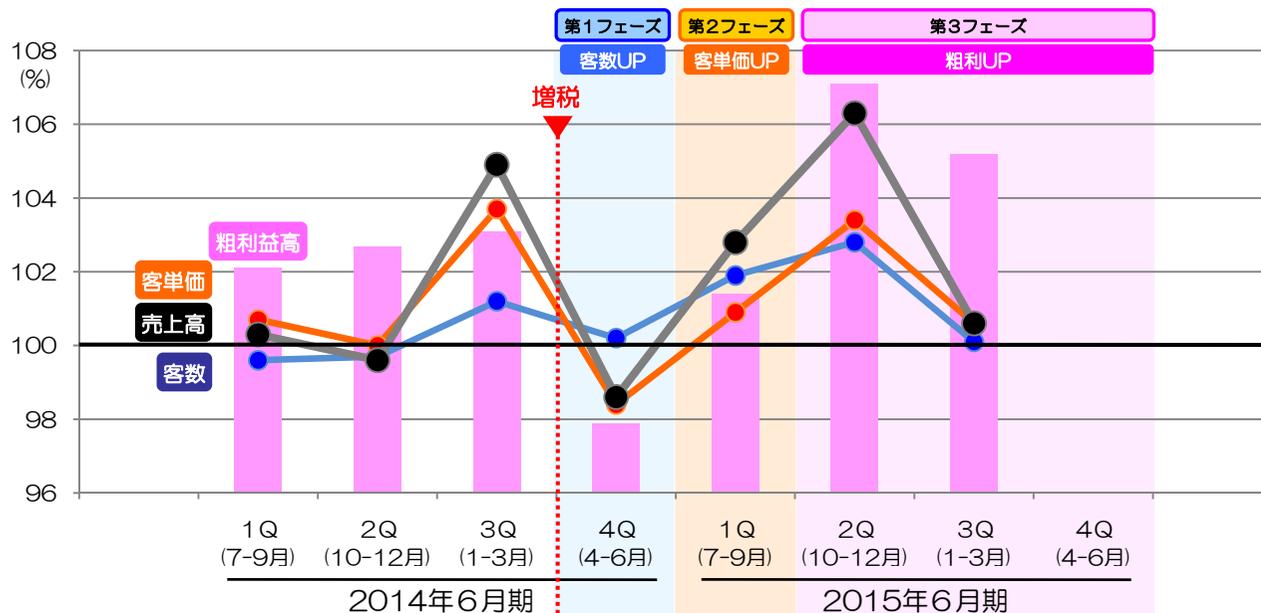
--- = 業態転換

* = ソリューション出店

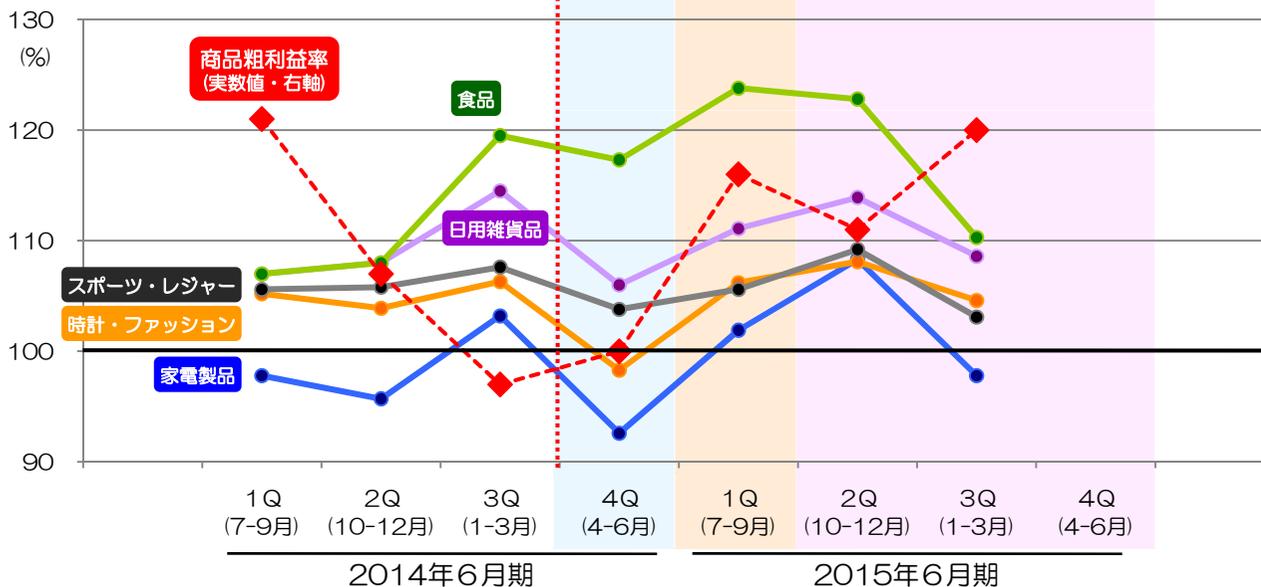
✓ = (スクラップ) & ビルド店

消費税増税商戦中間報告

DQの既存店(前年同期比)



DQの全店(前年同期比)



＜施策と成果＞

第1フェーズ

HOP

生活必需品を中心に、個店の商圈ごとにきめ細やかな価格訴求を実施。

他店からシェアを奪うため、粗利益率をトレードオフして、客数・買い上げ点数の増加に成功。

第2フェーズ

STEP

来店されたお客さまをドンキファン化するべく、「松竹梅」作戦を実施。

低価格だけでなく、竹＝「ちょっといいもの」の品揃えを強化し、お客さまの定着＝客単価アップに成功。

第3フェーズ

& JUMP

変幻自在なお客さま対応型MDミックスに加えて、非食品を中心とした付加価値型商品強化策を推進。

同時にインバウンド消費の獲得を通じて、お客さま支持率アップと粗利益改善に成功。

Look back

2014年4月～2015年3月 (億円)

	金額	百分比	前期比
売上高	6,606	100.0%	109.7%
営業利益	390	5.9%	105.0%
経常利益	405	6.1%	106.0%

Welcome to TOKYO CENTRAL

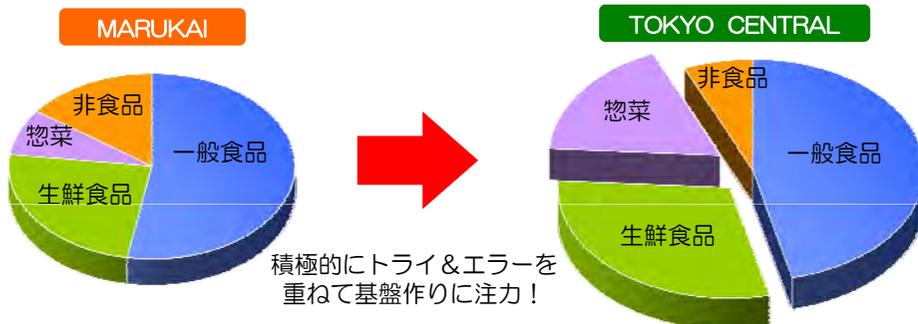
ドン・キホーテ HLDGS

TOKYO CENTRAL
Specialty Market

MARUKAI から
新業態 TOKYO CENTRAL へリニューアル!
現在、2店舗営業中!

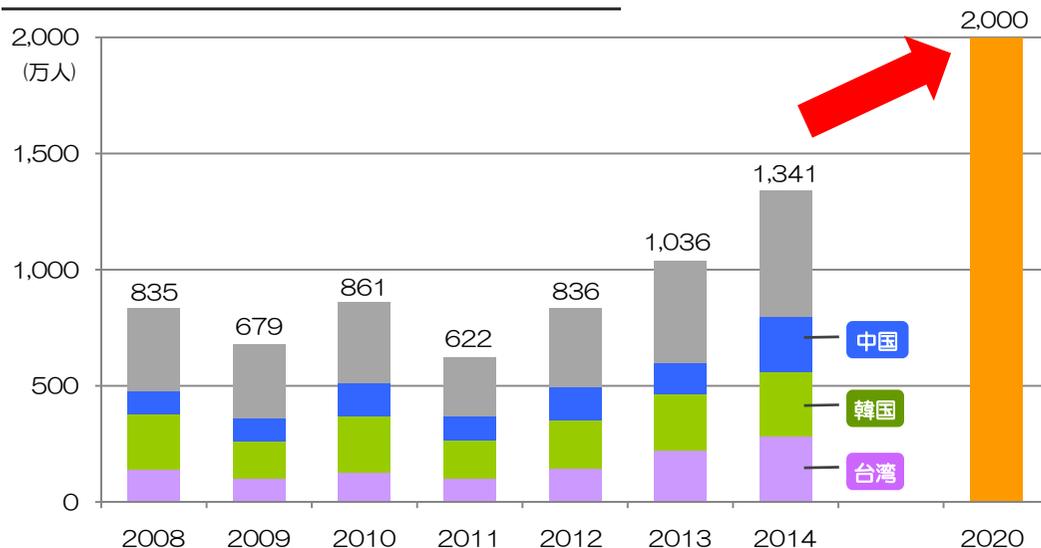


◆ 商品別売上構成比の変化



インバウンドを訪ねて

◆ 訪日外国人観光客数の動向(日本全体)



インバウンド＝ドンキ

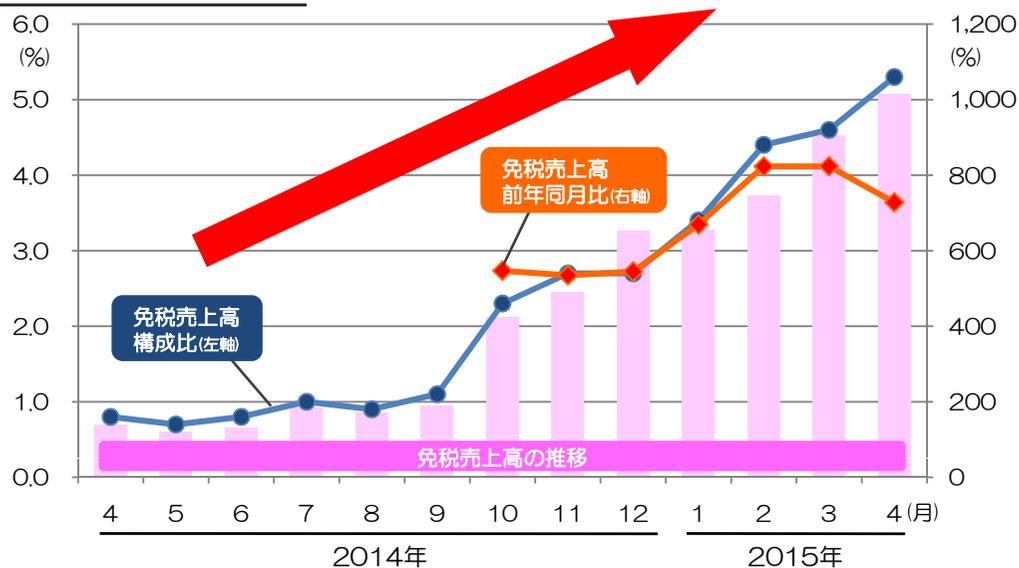
- 好立地
- 多様な品揃え
- 深夜営業

国内の全店舗が
免税免許取得店

2008年からインバウンド事業
取り組みのノウハウ蓄積



◆ 免税売上高の推移

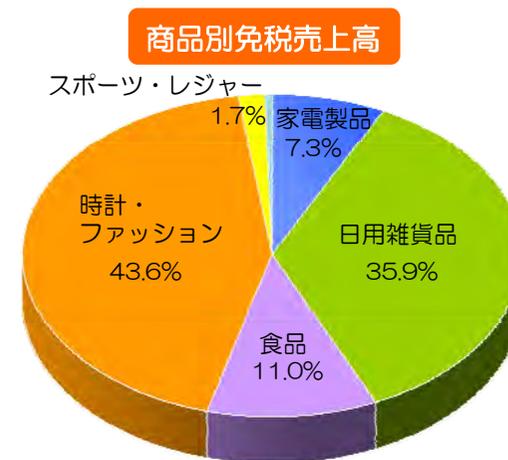
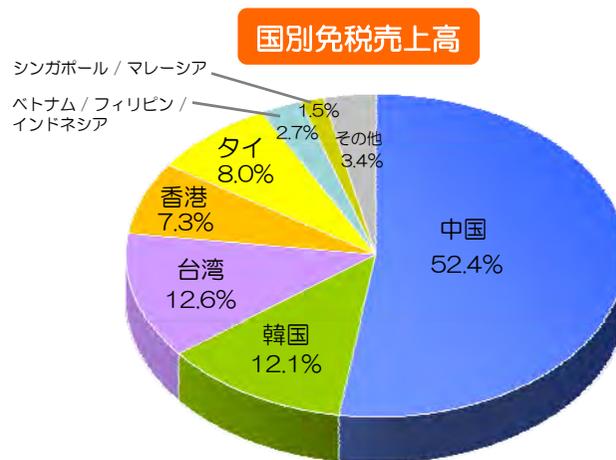
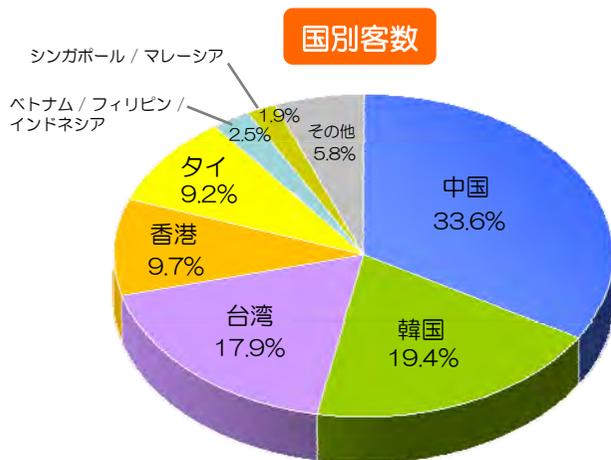


◆ 免税売上高構成比 上位10店

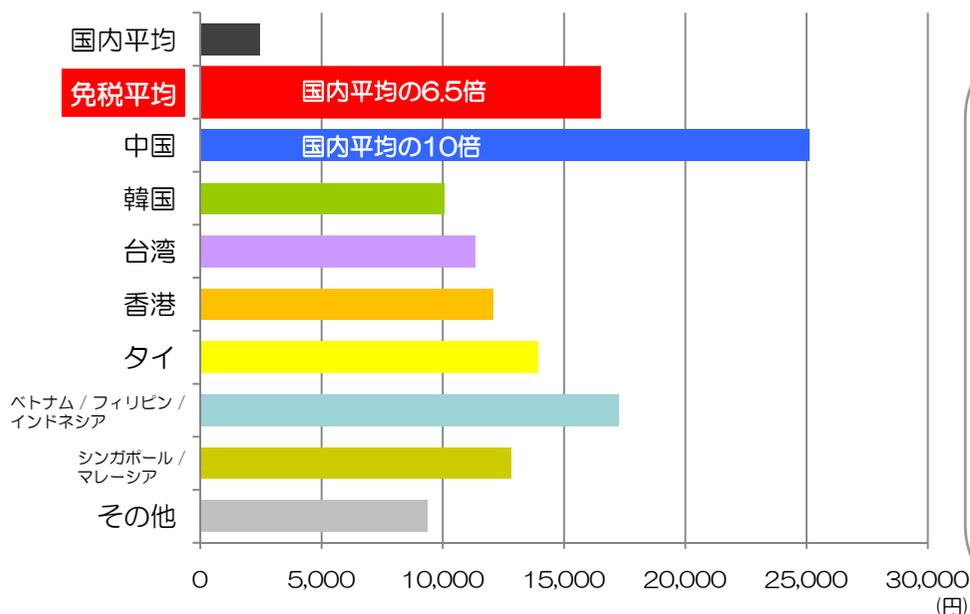
順位	店舗名	免税構成比
1	道頓堀店 (大阪)	35.6%
2	国際通り店 (沖縄)	31.0%
3	銀座本館 (東京)	27.1%
4	新宿東口店 (東京)	25.0%
5	札幌店 (北海道)	23.6%
6	中洲店 (福岡)	17.5%
7	名古屋栄店 (愛知)	17.0%
8	池袋東口駅前店 (東京)	16.8%
9	梅田本店 (大阪)	14.7%
10	浅草店 (東京)	12.3%
全店		3.3%

ようこそドン・キホーテへ

◆ 免税構成比



◆ 免税客単価



◆ 訪日外国人対応強化策

取り組み(フェーズ1)

- 訪日客向け特典カード
 - ようこそ! カード
- 訪日客専用免税カウンター
 - ウェルカムカウンター
- 各店専任訪日客対応スタッフ
 - ウェルカムクルー
- 24時間 / 4カ国語対応コールセンター
 - ウェルカムデスク

取り組み(フェーズ2)

- 旅行前の商品予約サービス
 - ウェルカム予約サイト
- まとめ買いサポート
 - 空港配送サービス
- 全店導入
 - DONKI Free Wi-Fi & 銀聯カード決済
- 外貨7通貨で支払可能
 - 外貨によるレジ精算サービス

中長期の重点戦略と当期の施策

ドン・キホーテ HLDGS

—中長期重点戦略—

1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店を含めた積極的な店舗開発

—2015年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：経営体制の変革期に向けた経営資源の再構築
2. 営業方針：消費環境の変化に機敏、かつ柔軟な対応力を発揮
商圏内競争力をいっそう高めて、ブランド力の底上げを図る
インバウンド需要を積極的に仕掛けて徹底的に取り込む
3. 商品戦略：消費マインドの変化に適応する商品ポートフォリオの改廃と進化
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
4. 店舗戦略：設備投資額450億円、新規出店33店（4Qは過去最高の11店予定）
都市型店の開発強化、MEGA店の収益力強化
DQ既存店売上高の予想：下半期＝2.4%増、通期＝3.5%増
5. 財務戦略：資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
デットによる資金調達を実施済
年間配当金予想＝36円00銭（前期まで11期連続増配継続中！）

通期業績予想を
上方修正しました！



通期の連結業績予想

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)



	通期修正予想			前回予想 ※1		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	668,000	100.0%	109.1%	658,000	100.0%	612,424	100.0%
売上総利益	179,000	26.8%	111.2%	175,500	26.6%	161,018	26.3%
販管費	141,000	21.1%	111.3%	139,000	21.1%	126,726	20.7%
営業利益	38,000	5.7%	110.8%	36,500	5.5%	34,292	5.6%
経常利益	39,000	5.8%	109.9%	37,500	5.7%	35,487	5.8%
当期純利益	22,300	3.3%	103.9%	21,800	3.3%	21,471	3.5%
1株当たり純利益	284.47円	—	103.6%	278.09円	—	274.68円	—
設備投資額	45,000	—	126.5%	45,000	—	35,563	—
減価償却費	11,500	1.7%	110.6%	11,200	1.7%	10,402	1.7%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
ディスカウント体制の一層の強化を進めながら、
引き続き増収増益決算を目指します。

※1. 前回予想は、2015年2月5日に当初予想（売上高6,340億円、営業利益348億円、経常利益356億円、純利益215億円）を上方修正したものであります。

上場子会社決算業績概況

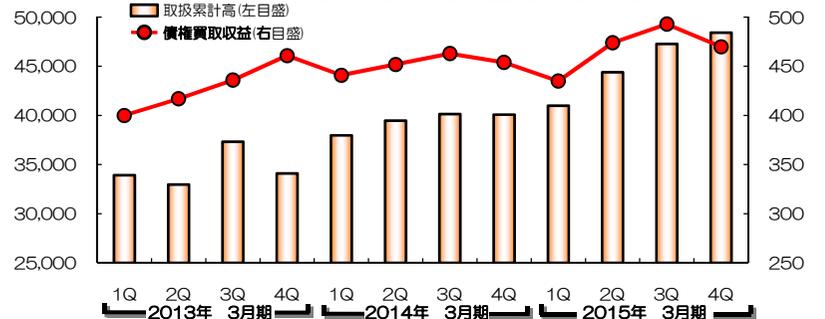
ドン・キホーテ HLDGS

<アクリーティブ：8423>

(単位：百万円)

【PL概況】	2015年3月期			2014年3月期		
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	
取扱累計高	181,118	—	114.9%	157,693	—	
営業収益	3,346	100.0%	114.1%	2,932	100.0%	
債権買取収益	1,872	56.0%	103.4%	1,810	61.7%	
業務受託収益	1,109	33.1%	109.4%	1,014	34.6%	
その他収益	365	10.9%	338.0%	108	3.7%	
金融費用	163	4.9%	81.5%	200	6.8%	
販売管理費	1,735	51.8%	106.9%	1,622	55.3%	
営業利益	1,448	43.3%	130.5%	1,110	37.9%	
経常利益	1,486	44.4%	130.0%	1,143	39.0%	
当期純利益	1,456	43.5%	123.7%	1,177	40.1%	

【取扱累計高及び債権買取収益】



【BS概況】	当4Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	20,895	1,251	19,644
負債	15,466	▲215	15,681
純資産	5,429	1,466	3,963

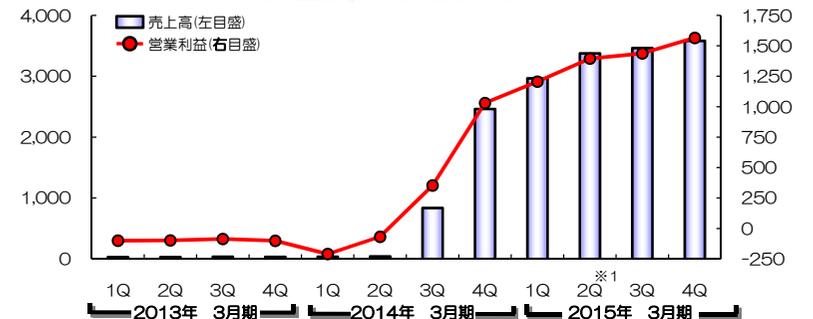
<日本アセットマーケティング：8922>

(単位：百万円)

【PL概況】	2015年3月期 ※1			2014年3月期	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	13,389	100.0%	411.5%	3,254	100.0%
売上総利益	5,854	43.7%	406.5%	1,440	44.3%
販売管理費	250	1.9%	71.2%	351	10.8%
営業利益	5,604	41.9%	515.1%	1,088	33.4%
経常利益	4,796	35.8%	611.0%	785	24.1%
当期純利益	4,064	30.4%	223.3%	1,820	55.9%

※1. 当2Qより非連結決算となっております。

【売上高及び営業利益】



【BS概況】	当4Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	93,100	34,340	58,760
負債	85,241	30,217	55,024
純資産	7,858	4,122	3,736

本日はありがとうございました

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第35期（2015年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2015年8月17日（月）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS